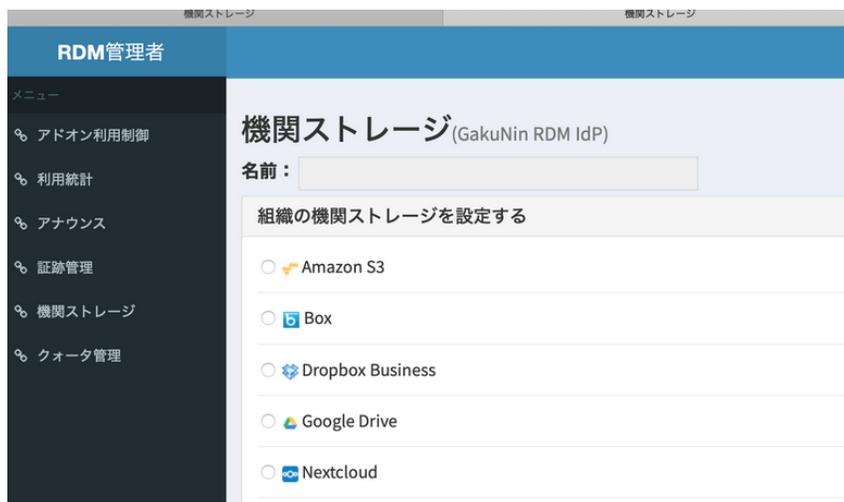


機関ストレージ機能

管理者画面から機関管理者が操作します。機関内で主に利用するストレージを機関ストレージと呼びます。

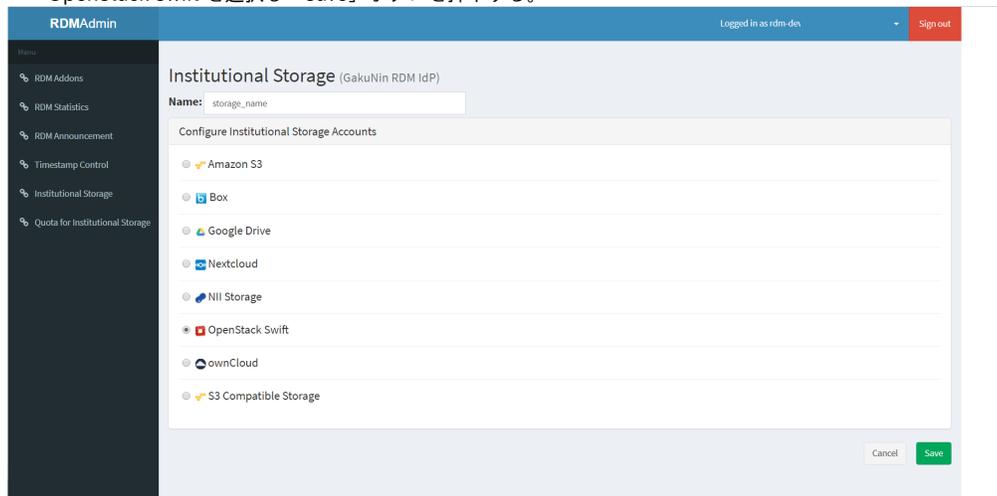
GakuNin RDMでは、ストレージサービスから主に利用するストレージを選択し、機関ストレージとして運用します。

メニューの「機関ストレージ」よりプロバイダーごとに必要な情報を入力できます。それぞれのユーザインタフェースは、対象のストレージサービス毎に異なります。下記の(1)~(7)の中から対象のストレージサービスを選択し、操作方法を確認してください。



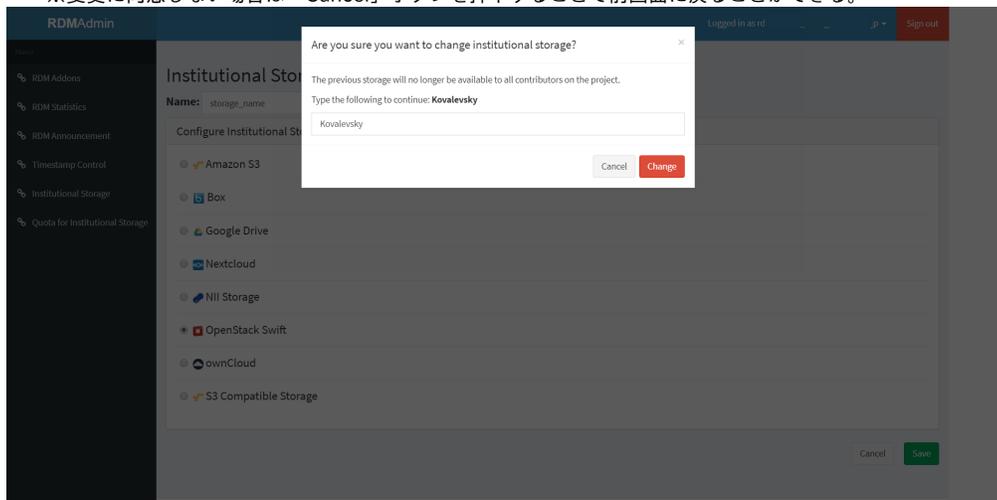
(1) Swiftを機関ストレージに指定する場合

- ① 「機関ストレージ」の画面にて、Nameのフォームに任意のストレージ名称を入力し、OpenStack Swiftを選択し「Save」ボタンを押下する。

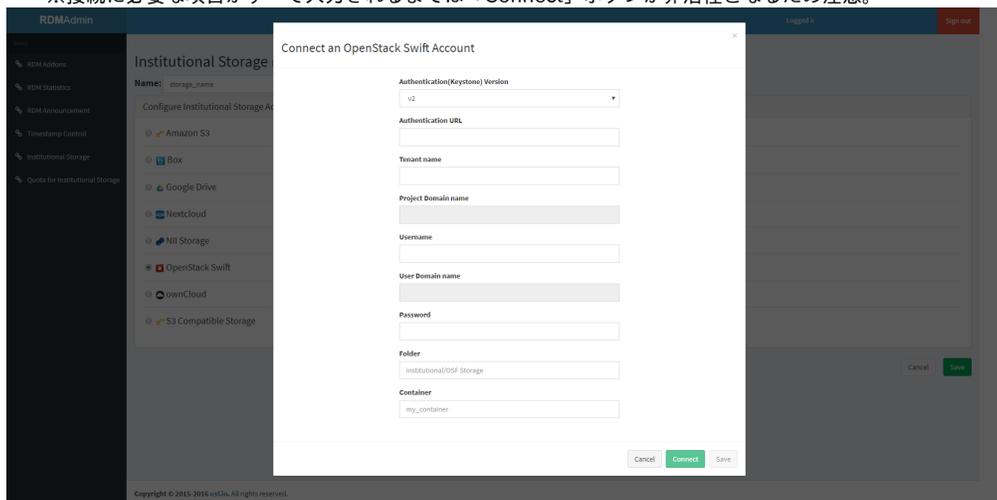


②機関ストレージの変更について、確認画面が表示される。

変更に同意する場合には「Type the following to continue:」の後に続く文字列をフォームに入力し「Change」ボタンを押下する。
※変更に同意しない場合は「Cancel」ボタンを押下することで前画面に戻ることができる。



③認証情報および設定情報の入力画面が表示されるため、下記に従って各フォームを入力し「Connect」ボタンを押下し接続試験を行う。
※接続に必要な項目がすべて入力されるまでは「Connect」ボタンが非活性となるため注意。

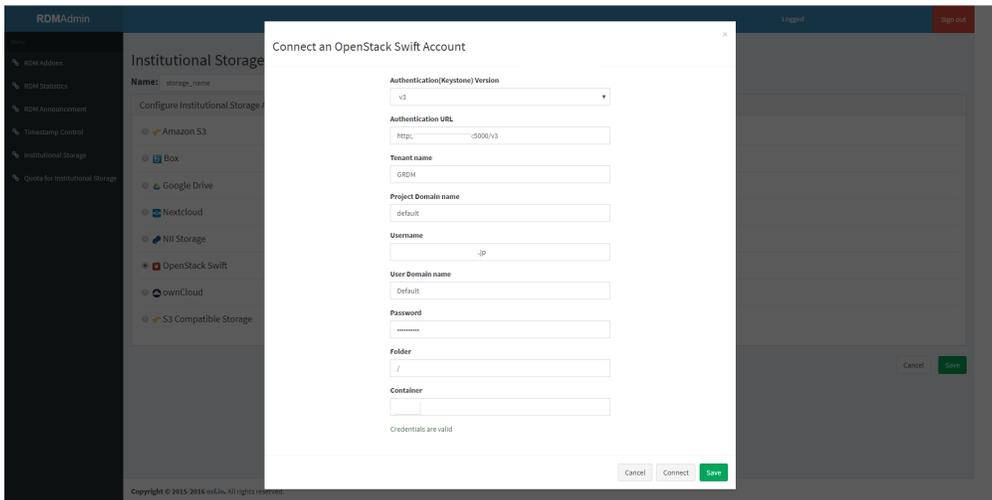


■ OpenStack Swift の認証に必要な項目

項目	入カタイプ	入力内容
Authentication(Keystone) Version	dropdown	OpenStack Swift のバージョン
Authentication URL	text input	OpenStack Swift 認証URL
Tenant name	text input	対象のテナント名
Project Domain name	text input	対象のプロジェクトドメイン名
Username	text input	対象アカウントのユーザ名(メールアドレス)
User Domain name	text input	対象のユーザドメイン名
Password	text input	対象アカウントのパスワード
Container	text input	対象のコンテナ名

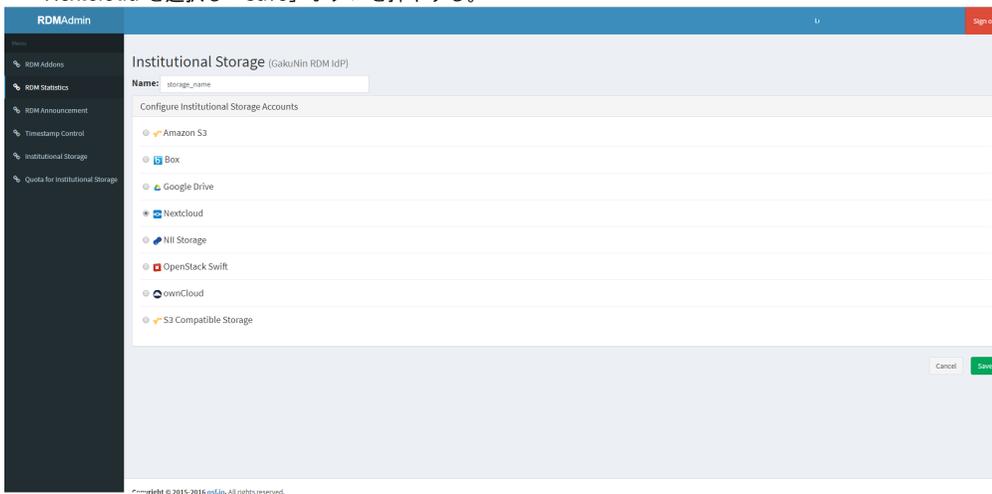
接続試験が成功した場合、「Credentials are valid」と表示されるため、手順④に進む。
接続試験に失敗した場合、「Unable to list containers. Listing containers is required permission.」と表示されるため、エラー内容を修正し再度「Connect」ボタンを押下する。

④「Save」ボタンを押下し、機関ストレージ設定を保存する。



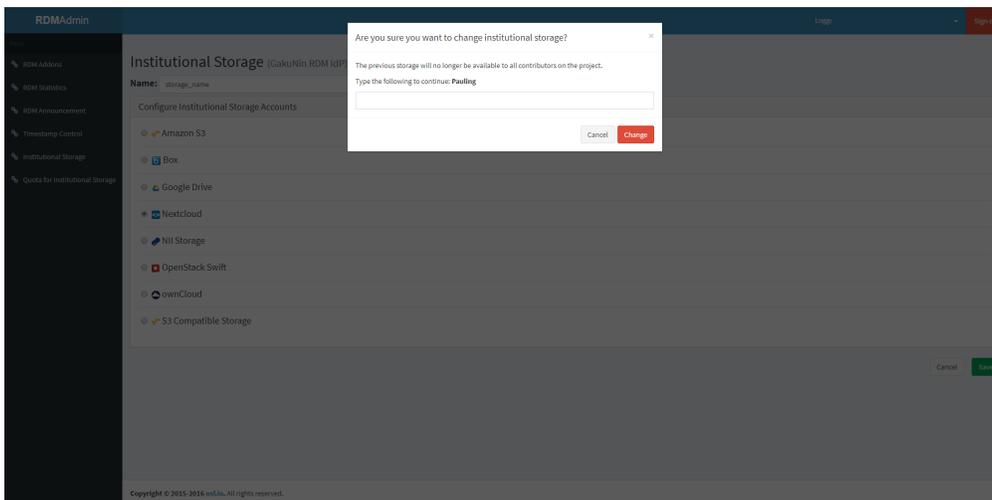
(2) Nextcloudを機関ストレージに指定する場合

- ① 「機関ストレージ」の画面にて、Nameのフォームに任意のストレージ名称を入力し、Nextcloudを選択し「Save」ボタンを押下する。

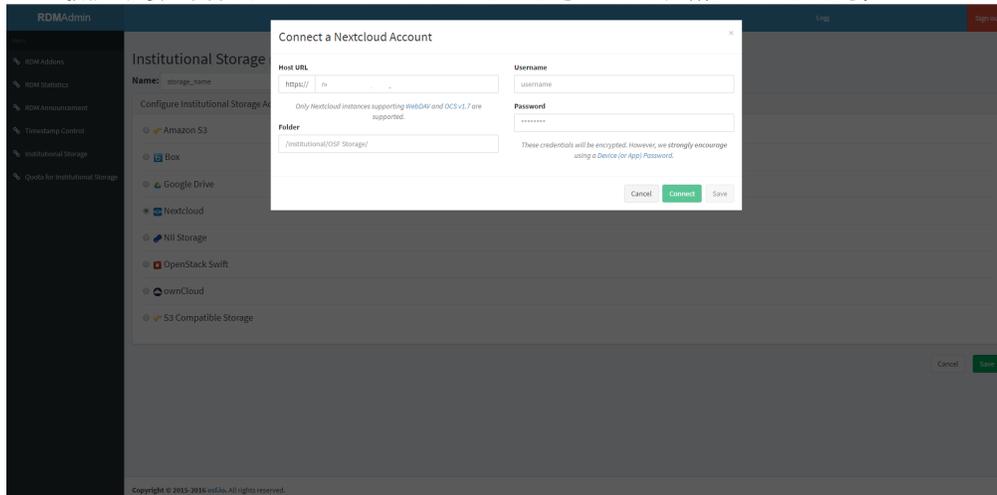


- ② 機関ストレージの変更について、確認画面が表示される。

変更同意する場合には「Type the following to continue:」の後に続く文字列をフォームに入力し「Change」ボタンを押下する。
 ※変更不同意の場合は「Cancel」ボタンを押下することで前画面に戻ることができる。



③ 認証情報および設定情報の入力画面が表示されるため、下記に従って各フォームを入力し「Connect」ボタンを押下し接続試験を行う。
 ※接続に必要な項目がすべて入力されるまでは「Connect」ボタンが非活性となるため注意。

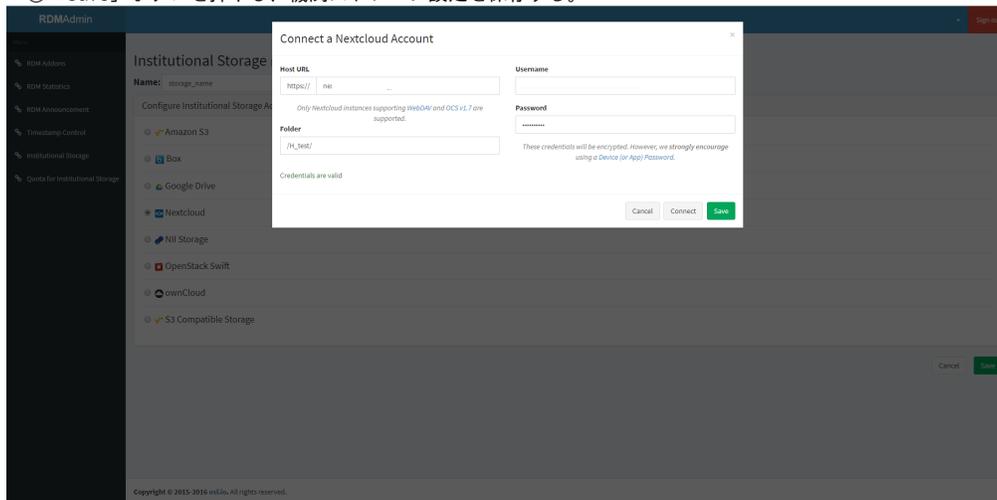


■ Nextcloud の認証に必要な項目

項目	入力タイプ	入力内容
Host URL	text input	接続対象URL(スキーマ含む)
Username	text input	対象アカウントのユーザ名
Password	text input	対象アカウントのパスワード
Folder	text input	利用したいフォルダへのパス

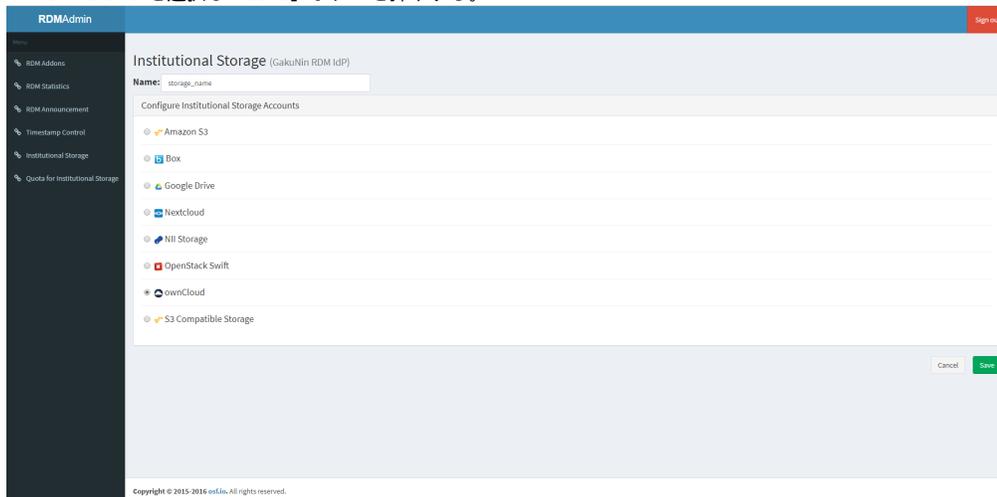
接続試験が成功した場合、「Credentials are valid」と表示されるため、手順④に進む。
 接続試験に失敗した場合、エラー内容が表示されるため、修正し再度「Connect」ボタンを押下する。

④ 「Save」ボタンを押下し、機関ストレージ設定を保存する。

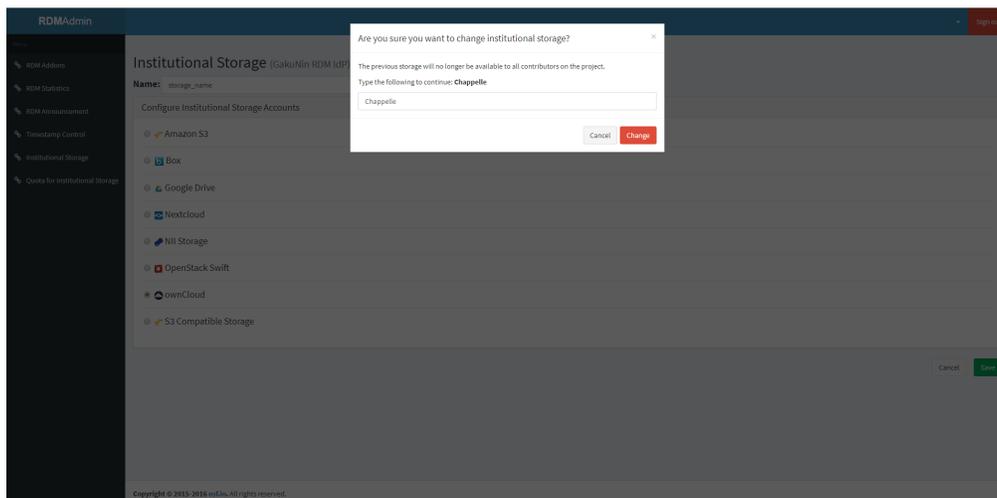


(3) ownCloudを機関ストレージに指定する場合

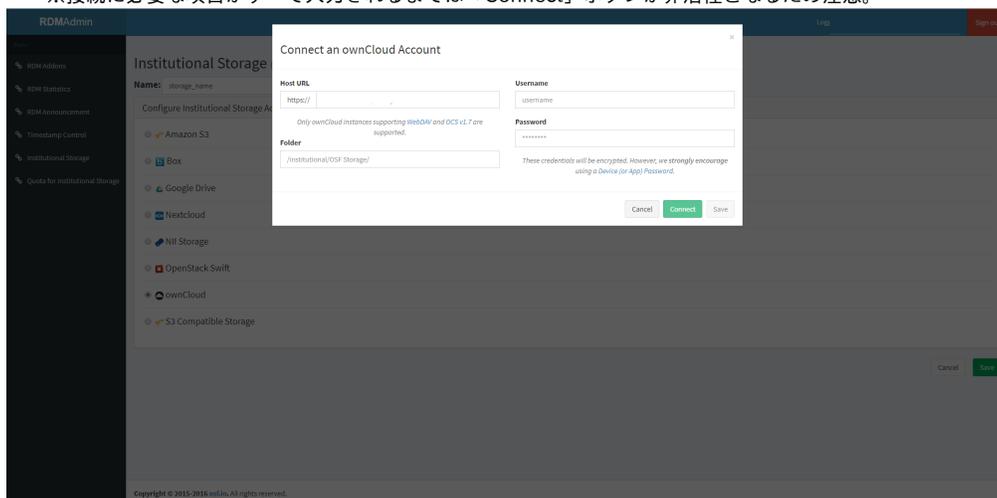
- ①「機関ストレージ」の画面にて、Nameのフォームに任意のストレージ名称を入力し、ownCloudを選択し「Save」ボタンを押下する。



- ②機関ストレージの変更について、確認画面が表示される。
変更同意する場合には「Type the following to continue:」の後に続く文字列をフォームに入力し「Change」ボタンを押下する。
※変更に同意しない場合は「Cancel」ボタンを押下することで前画面に戻ることができる。



- ③認証情報および設定情報の入力画面が表示されるため、下記に従って各フォームを入力し「Connect」ボタンを押下し接続試験を行う。
※接続に必要な項目がすべて入力されるまでは「Connect」ボタンが非活性となるため注意。

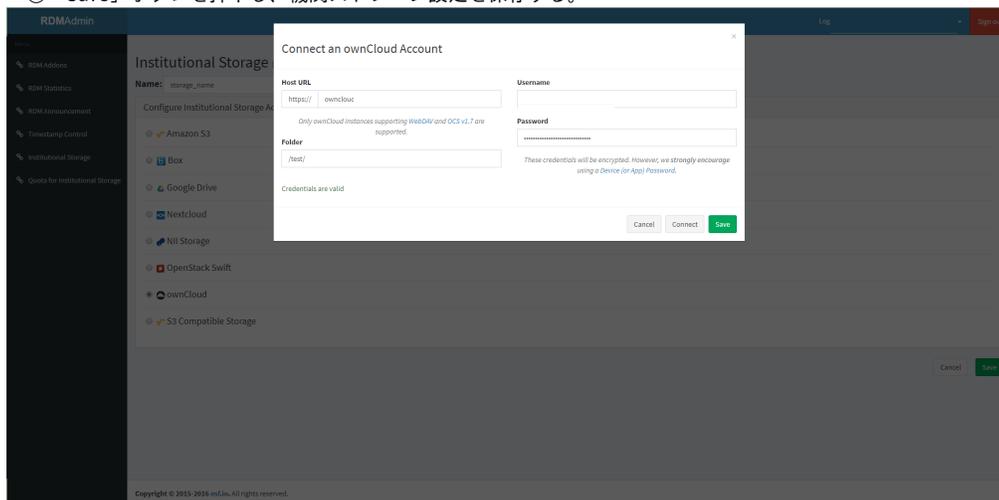


■ Nextcloud の認証に必要な項目

項目	入力タイプ	入力内容
Host URL	text input	接続対象URL(スキーマ含む)
Username	text input	対象アカウントのユーザ名
Password	text input	対象アカウントのパスワード
Folder	text input	利用したいフォルダへのパス

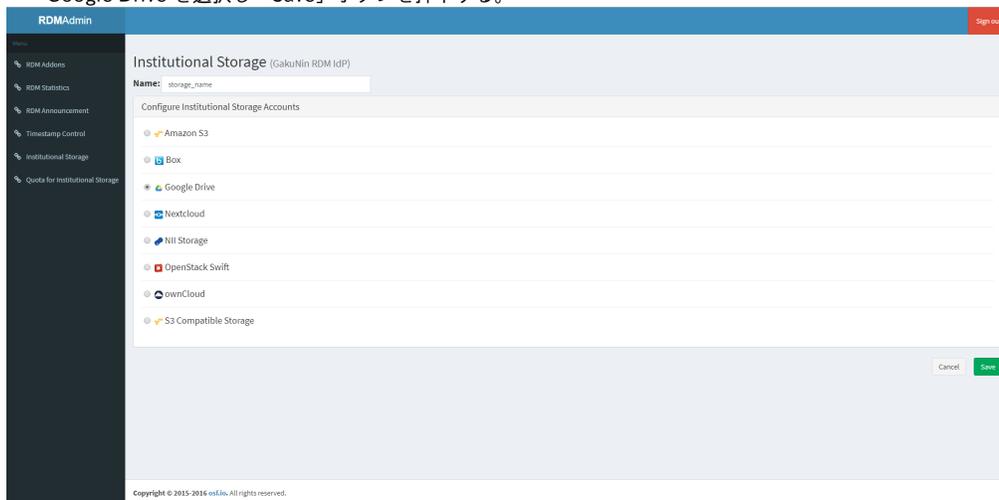
接続試験が成功した場合、「Credentials are valid」と表示されるため、手順④に進む。
 接続試験に失敗した場合、エラー内容が表示されるため、修正し再度「Connect」ボタンを押下する。

④ 「Save」ボタンを押下し、機関ストレージ設定を保存する。



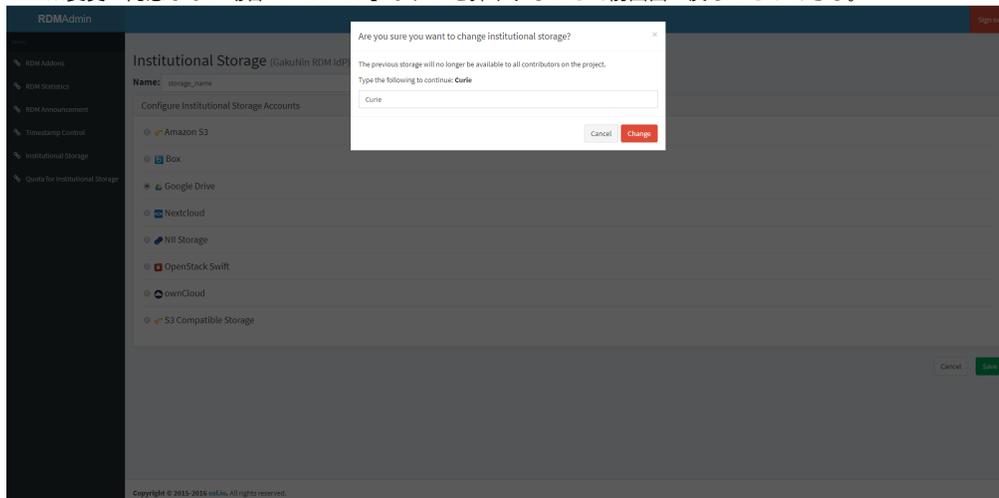
(4) Google Driveを機関ストレージに指定する場合

① 「機関ストレージ」の画面にて、Nameのフォームに任意のストレージ名称を入力し、Google Driveを選択し「Save」ボタンを押下する。



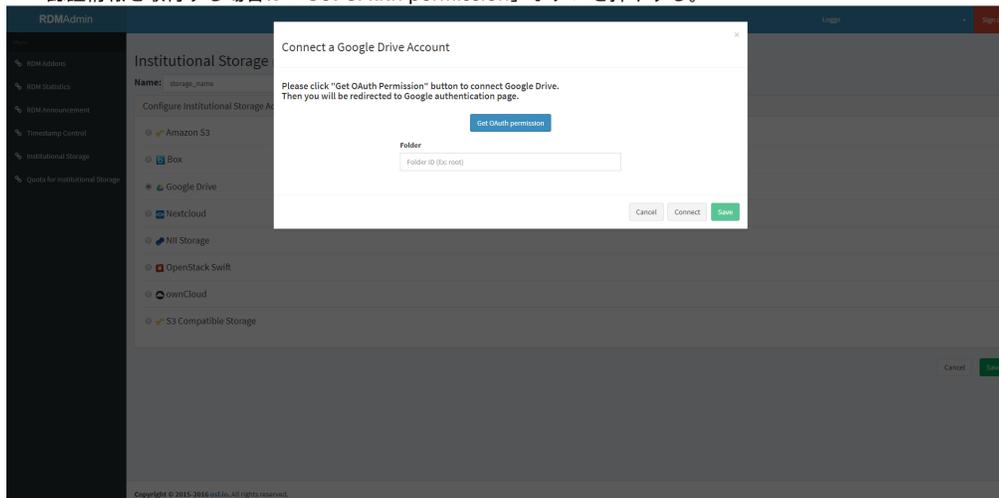
②機関ストレージの変更について、確認画面が表示される。

変更に同意する場合には「Type the following to continue:」の後に続く文字列をフォームに入力し「Change」ボタンを押下する。
※変更に同意しない場合は「Cancel」ボタンを押下することで前画面に戻ることができる。



③認証情報および設定情報の入力画面が表示される。

認証情報を取得する場合は「Get OAuth permission」ボタンを押下する。



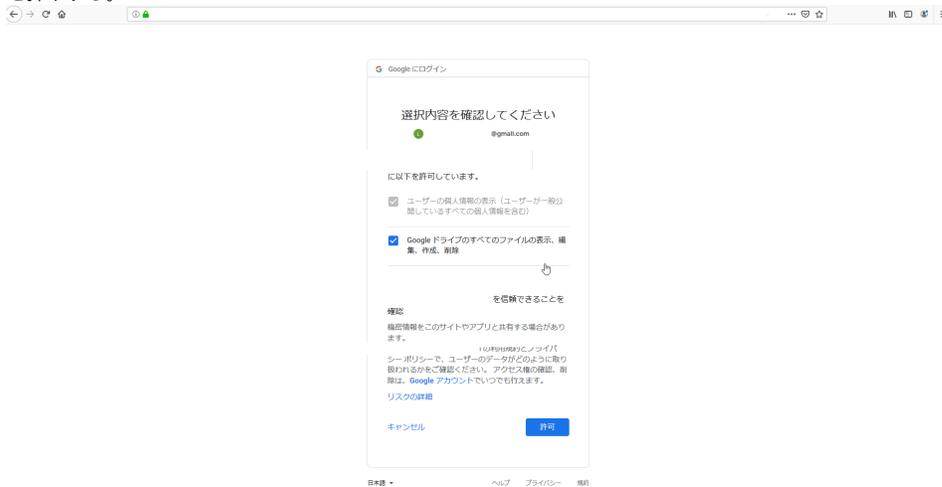
④アカウントの選択画面にて、対象のGoogleアカウントを選択する。



⑤アクセス権限の付与画面にて、「許可」を押下する。



⑥選択内容の確認画面が表示されるため、「Googleドライブのすべてのファイルの表示、編集、作成、削除」が選択されていることを確認し「許可」を押下する。



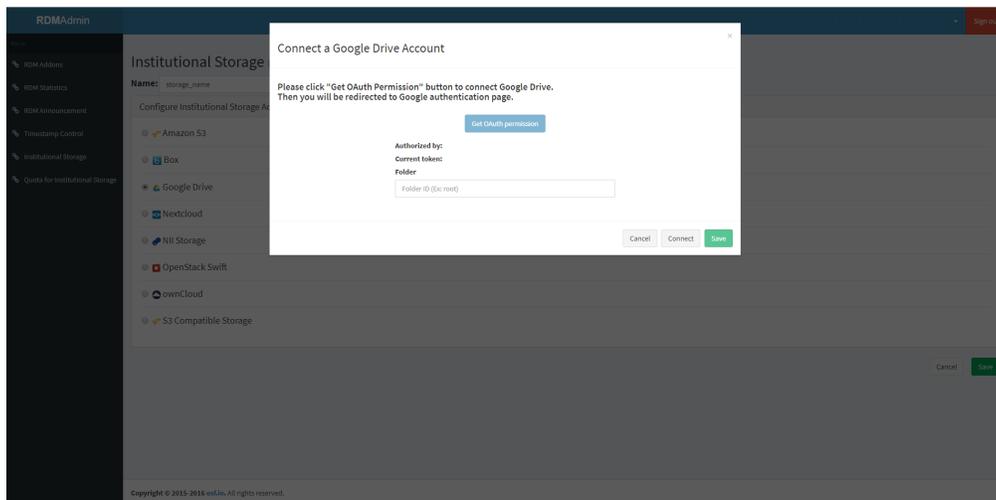
⑦下記のページが表示されれば認証成功である。
(この時点で認証は完了しているので、Closeボタンを押下しこのページは閉じる。)

Account for Google Drive Successfully added.
Please click the "Close" button to close this tab.

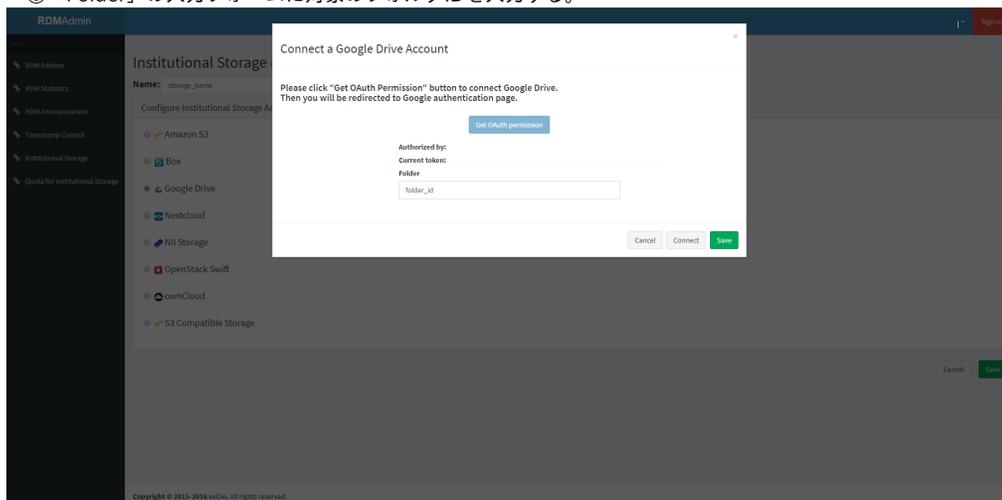
Close

⑧ 「機関ストレージ」のタブに戻る。

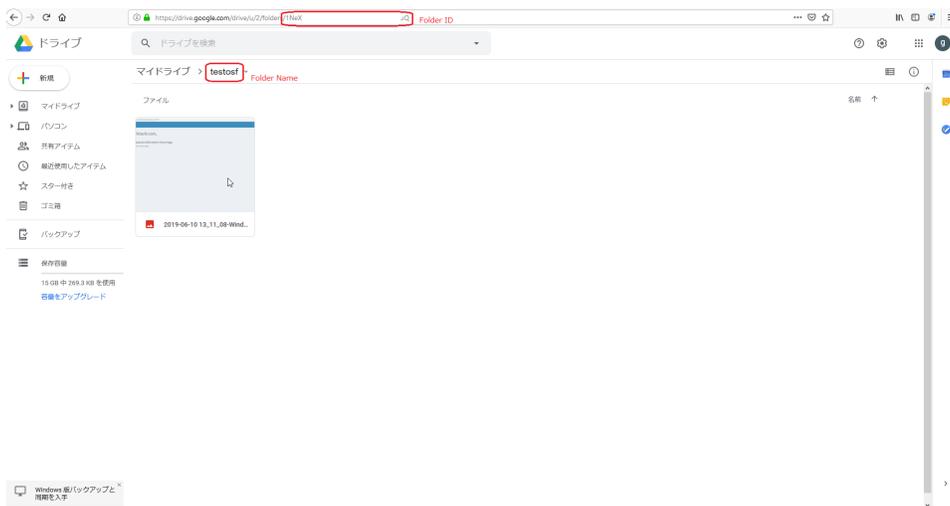
OAuth認証が成功し、認証を行ったユーザー名および認証トークンが表示されていることを確認する。



⑨ 「Folder」の入力フォームに対象のフォルダIDを入力する。



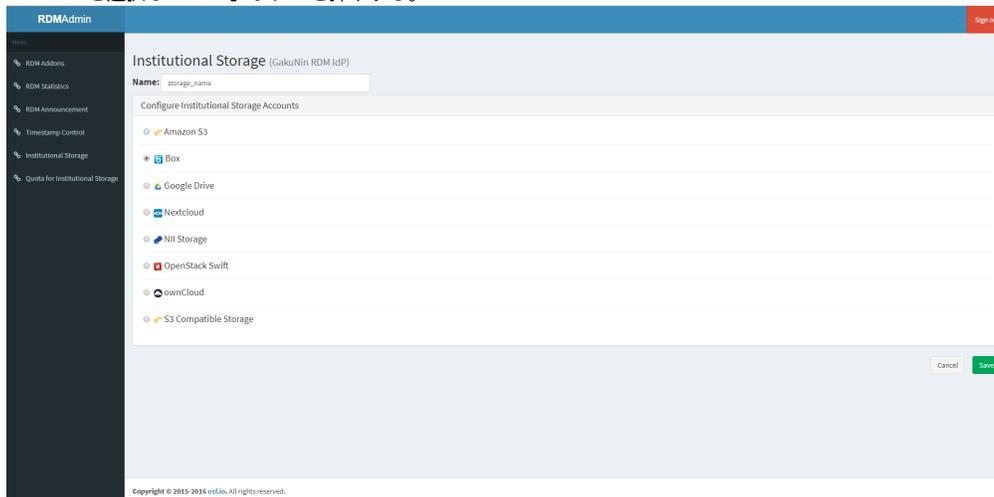
※フォルダIDはフォルダのURLに含まれる文字列であり、フォルダ名ではないので注意する。



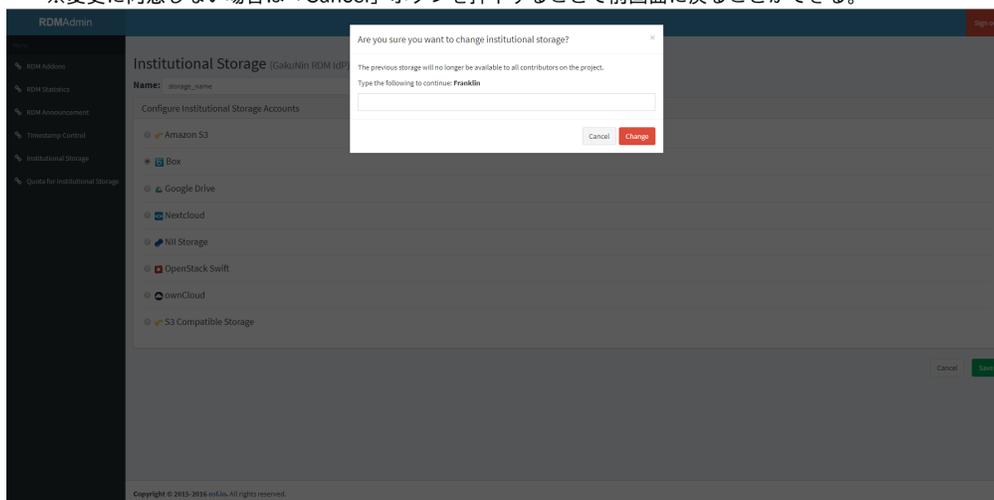
⑩ 「Save」ボタンを押下し、機関ストレージ設定を保存する。

(5) Boxを機関ストレージに指定する場合

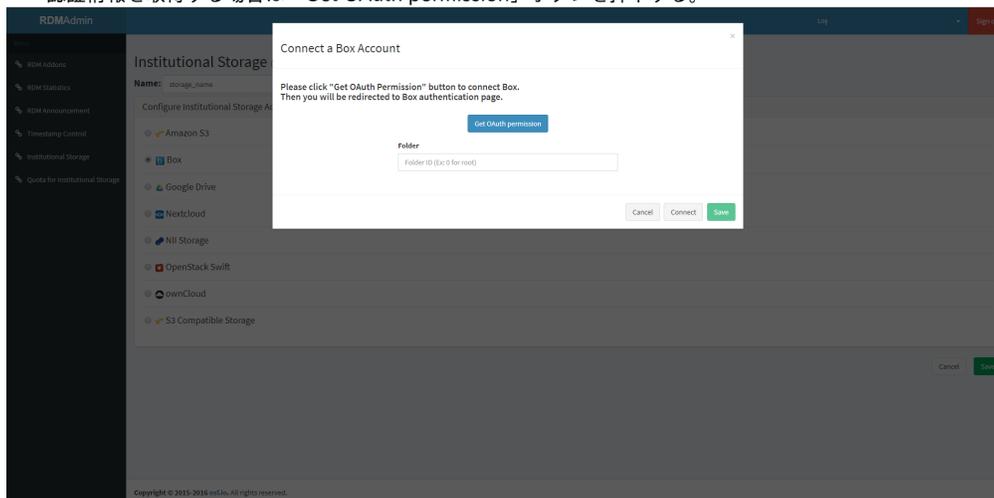
- ①「機関ストレージ」の画面にて、Nameのフォームに任意のストレージ名称を入力し、Boxを選択し「Save」ボタンを押下する。



- ②機関ストレージの変更について、確認画面が表示される。
変更同意する場合には「Type the following to continue:」の後に続く文字列をフォームに入力し「Change」ボタンを押下する。
※変更不同意の場合は「Cancel」ボタンを押下することで前画面に戻ることができる。



- ③認証情報および設定情報の入力画面が表示される。
認証情報を取得する場合は「Get OAuth permission」ボタンを押下する。



④ログイン画面にて、対象アカウントのメールアドレス、パスワードを入力し、「承認」を押下する。

box

Boxへのアクセスを許可するにはログインしてください

メールアドレス

パスワード

承認

シングルサインオン (SSO) を使用する

パスワードを忘れてしまった場合

stg4にBoxへのアクセスを許可することにより、Boxの 利用規約および プライバシーポリシーに同意したものとみなされます。

©2019 Box

⑤アクセス権限の付与画面にて、「Grant access to Box」を押下する。

box

With access to your .com Box account, stg4 can:

- Read and write all files and folders stored in Box

Grant access to Box

Deny access to Box

©2019 Box

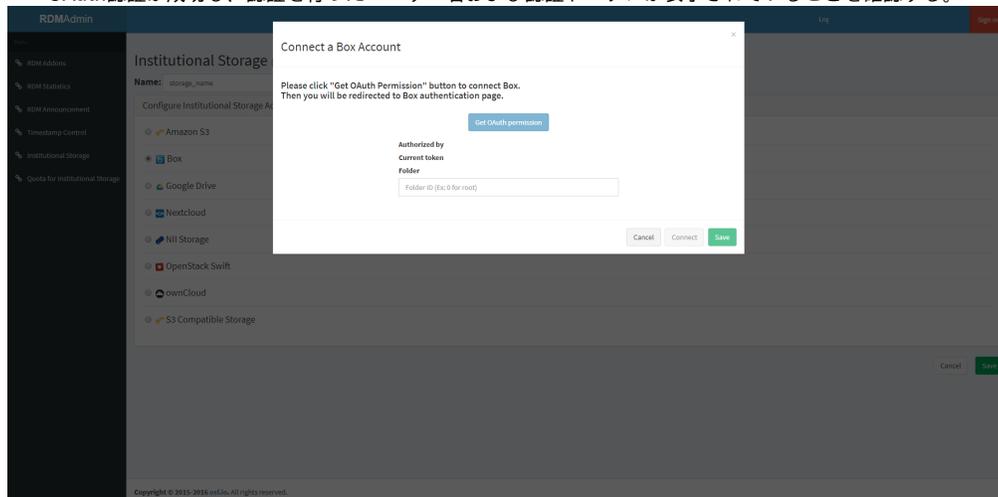
⑥下記のページが表示されれば認証成功である。
(この時点で認証は完了しているので、Closeボタンを押下しこのページは閉じる。)

Successfully connected to Box Account.
Please close this tab.

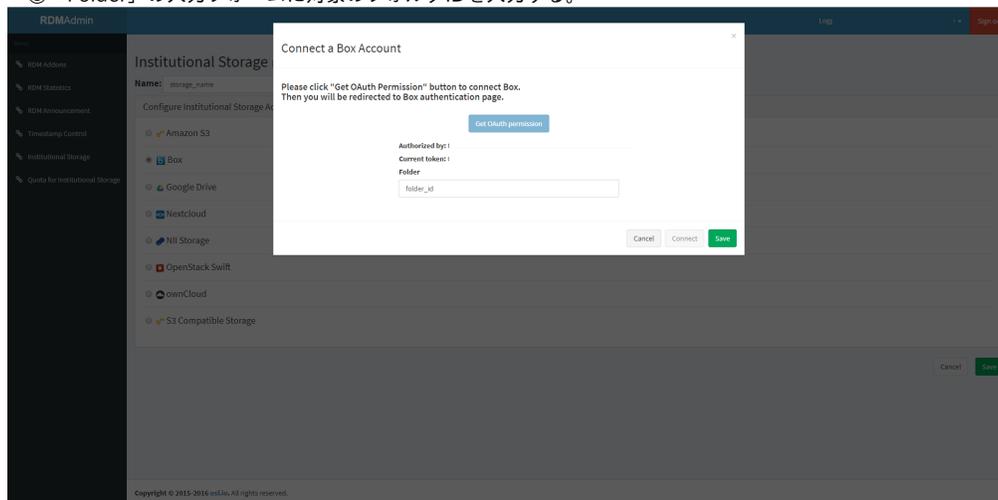
Close

⑦ 「機関ストレージ」のタブに戻る。

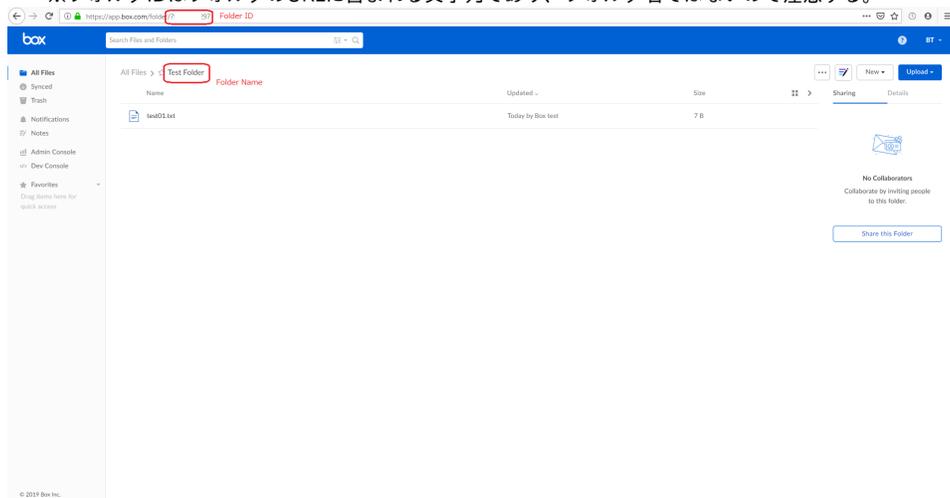
OAuth認証が成功し、認証を行ったユーザー名および認証トークンが表示されていることを確認する。



⑧ 「Folder」の入力フォームに対象のフォルダIDを入力する。



※フォルダIDはフォルダのURLに含まれる文字列であり、フォルダ名ではないので注意する。



⑨ 「Save」ボタンを押下し、機関ストレージ設定を保存する。

(6) Amazon S3 を機関ストレージに指定する場合

- ①「機関ストレージ」の画面にて、Nameのフォームに任意のストレージ名称を入力し、Amazon S3 を選択し「Save」ボタンを押下する。

RDMAdmin

Institutional Storage (GakuNin RDM IdP)

Name: storage_name

Configure Institutional Storage Accounts

- Amazon S3
- Box
- Google Drive
- Nextcloud
- NII Storage
- OpenStack Swift
- ownCloud
- S3 Compatible Storage

Cancel Save

- ②機関ストレージの変更について、確認画面が表示される。
変更に同意する場合には「Type the following to continue:」の後に続く文字列をフォームに入力し「Change」ボタンを押下する。
※変更に同意しない場合は「Cancel」ボタンを押下することで前画面に戻ることができる。

RDMAdmin

Institutional Storage

Name: storage_name

Configure Institutional Storage Accounts

- Amazon S3
- Box
- Google Drive
- Nextcloud
- NII Storage
- OpenStack Swift
- ownCloud
- S3 Compatible Storage

Are you sure you want to change institutional storage?

The previous storage will no longer be available to all contributors on the project.

Type the following to continue: **Herschel**

Herschel

Cancel Change

Cancel Save

- ③認証情報および設定情報の入力画面が表示されるため、下記に従って各フォームを入力し「Connect」ボタンを押下し接続試験を行う。
※接続に必要な項目がすべて入力されるまでは「Connect」ボタンが非活性となるため注意。

RDMAdmin

Institutional Storage

Name: storage_name

Configure Institutional Storage Accounts

- Amazon S3
- Box
- Google Drive
- Nextcloud
- NII Storage
- OpenStack Swift
- ownCloud
- S3 Compatible Storage

Connect an Amazon S3 Account

Access Key

Secret Key

Bucket

Cancel Connect Save

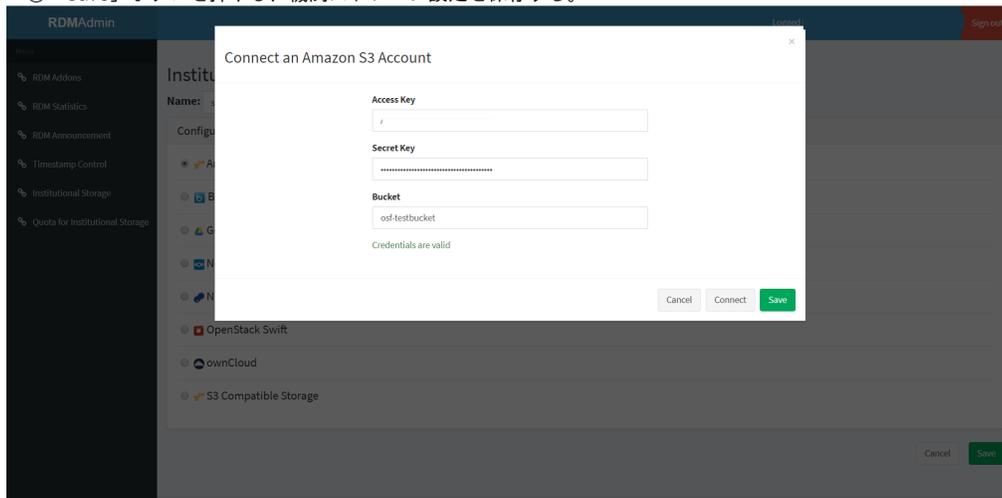
Cancel Save

■ Amazon S3 の認証に必要な項目

項目	入力タイプ	入力内容
Access Key	text input	S3 アクセスキー
Secret Key	text input	S3 シークレットキー
Bucket	text input	対象のバケット名

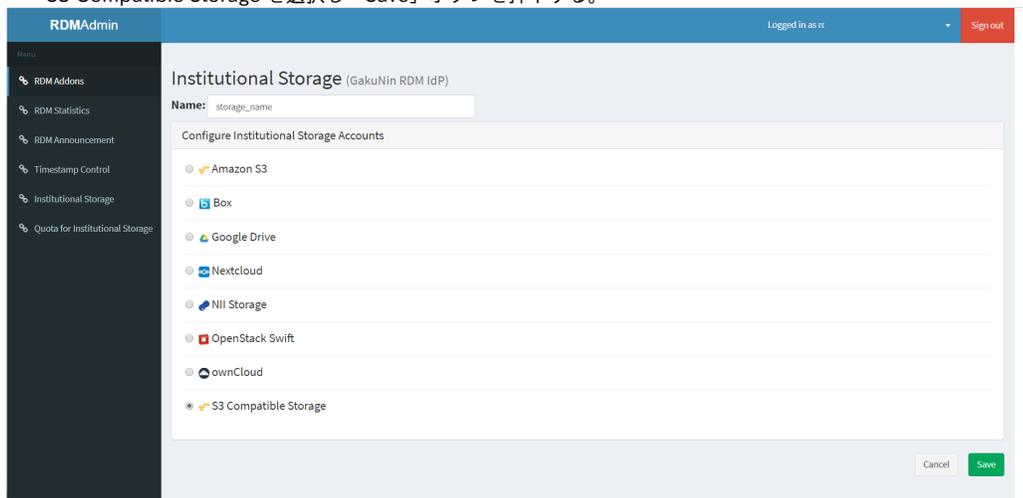
接続試験が成功した場合、「Credentials are valid」と表示されるため、手順④に進む。
 接続試験に失敗した場合、エラー内容が表示されるため、修正し再度「Connect」ボタンを押下する。

④「Save」ボタンを押下し、機関ストレージ設定を保存する。



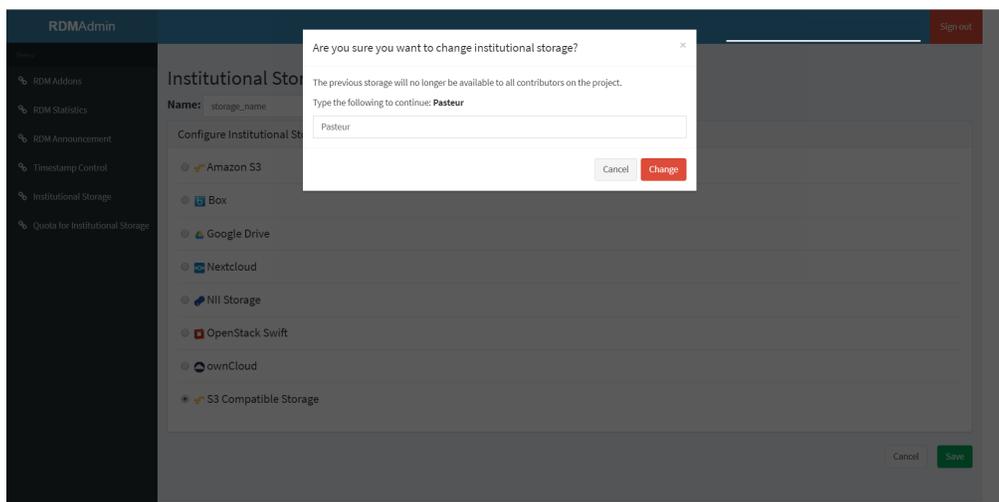
(7) S3互換ストレージを機関ストレージに指定する場合

①「機関ストレージ」の画面にて、Nameのフォームに任意のストレージ名称を入力し、S3 Compatible Storage を選択し「Save」ボタンを押下する。

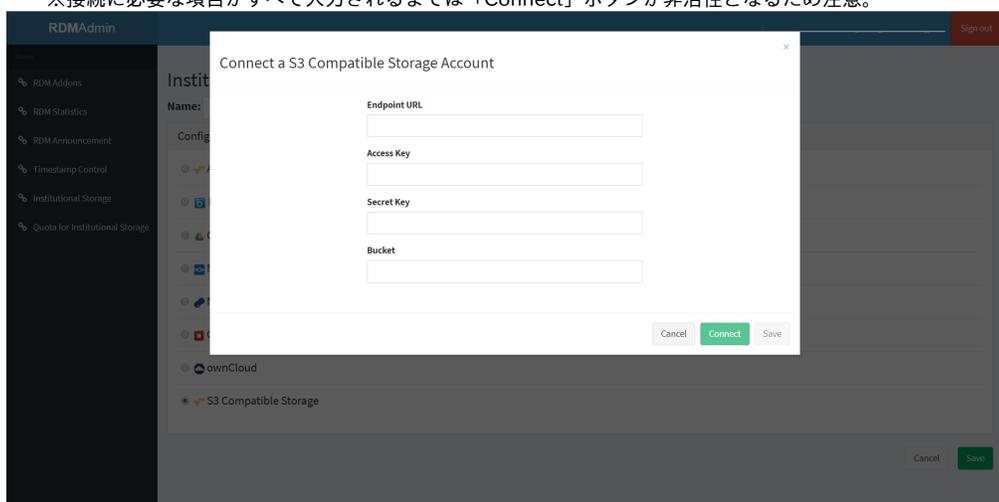


②機関ストレージの変更について、確認画面が表示される。

変更に同意する場合には「Type the following to continue:」の後に続く文字列をフォームに入力し「Change」ボタンを押下する。
 ※変更に同意しない場合は「Cancel」ボタンを押下することで前画面に戻ることができる。



③認証情報および設定情報の入力画面が表示されるため、下記に従って各フォームを入力し「Connect」ボタンを押し接続試験を行う。
 ※接続に必要な項目がすべて入力されるまでは「Connect」ボタンが非活性となるため注意。



■ S3互換ストレージの認証に必要な項目

項目	入力タイプ	入力内容
Endpoint URL	text input	エンドポイントURL(ホスト名)
Access Key	text input	S3互換ストレージ アクセスキー
Secret Key	text input	S3互換ストレージ シークレットキー
Bucket	text input	対象のバケット名

接続試験が成功した場合、「Credentials are valid」と表示されるため、手順④に進む。
接続試験に失敗した場合、エラー内容が表示されるため、修正し再度「Connect」ボタンを押下する。

④ 「Save」ボタンを押下し、機関ストレージ設定を保存する。

